

## 各地区の文化的景観の価値と特性

### 【福井市 下岬地区】

- 自然的特性** 沿岸部は岩礁と海蝕崖が連なる海岸線を持ち、東側はガラガラ山などの丹生山地が接することから、ごくわずかな平地部に集落が形成されている。
- 歴史的特性** 縄文時代の遺跡や鎌倉時代の年貢の記録が残り、古くから海との関わりを持って発展した。
- 生活・生業** 山腹の集落では稲作のほか、果樹や林産物等を栽培し、沿岸の集落ではウニ等の浅海漁業が盛んであった。近年では減反政策の影響や栽培効率を踏まえ、田畑が水仙畑へと転換している。限られた敷地を有効活用するため、石積を利用した建物や棚田状の農地が残る。

#### <本質的な価値>

平地が少ない厳しい地形の中、柔軟に生業を変遷していく中で継承されてきた農漁村の特徴が現れた文化的景観。日本を代表する水仙の産地の形成過程とこの地域の人々の生活および生業、風土により形成された景観地。



### 【越前町 上岬地区】

- 自然的特性** 沿岸部は呼鳥門や鳥糞岩などの奇岩断崖が連なる海岸線を持ち、東側は丹生山地が接することから、ごくわずかな平地部に集落が形成されている。
- 歴史的特性** 平安時代に塩やワカメが年貢として納められていたという記録が残る。江戸時代には米の自給自足を目指した水田開発が行われ、千枚田と呼ばれる棚田がつくられた。
- 生活・生業** 山腹の集落では稲作や林業を営み、沿岸の集落ではワカメやサザエ漁が行われていた。近年では米の需要低下や栽培効率を踏まえ、千枚田やそのほかの畑も水仙畑へと転換している。限られた敷地を有効活用するため、石積を利用した建物や棚田状の農地が残る。

#### <本質的な価値>

平地が少ない厳しい地形の中、先人たちが耕作地を広げ、柔軟に生業を変遷していく中で継承されてきた農漁村の特徴が現れた文化的景観。日本を代表する水仙の産地の形成過程とこの地域の人々の生活および生業、風土により形成された景観地。

### 【南越前町 糠地区】

- 自然的特性** 沿岸部は急斜面の海岸段丘が連なり、東側は丹生山地が接することから、ごくわずかな平地部に集落が形成されている。
- 歴史的特性** 奈良時代には糠川沿いに集落が形成され、中世には越前海岸と府中（現在の武生）を結ぶ交通の要所として栄えた。
- 生活・生業** 山腹の集落では林業や養蚕等を営み、沿岸の集落では定置網漁等による漁業を主な生業とし、漁に出れない冬は男性が杜氏として出稼ぎに行き、女性が水仙を栽培をしていた。切り立った地形に寄り添うように密集して家々が建ち並び、敷地に石積を利用した建物が残る。

#### <本質的な価値>

極めて平地が少ない地形の中、漁業と農業を主な生業としつつも、副業として急斜面を活用した水仙栽培が行われる農漁村の特徴が現れた文化的景観。日本を代表する水仙の産地の形成過程とこの地域の人々の生活および生業、風土により形成された景観地。



# 越前海岸の水仙畑 文化的景観保存調査報告書 【概要版】

文化的景観とは…

「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの(文化財保護法第二条第1項第五号より)」

平成31年3月

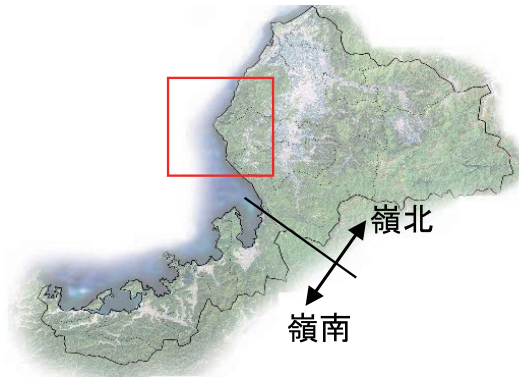
福井県  
福井市 越前町 南越前町

<問合せ先> 福井県 観光営業部 文化振興課 歴史遺産推進室  
〒910-8580 福井県福井市大手3丁目17番1号 TEL: 0776-20-0572 FAX: 0776-20-0661

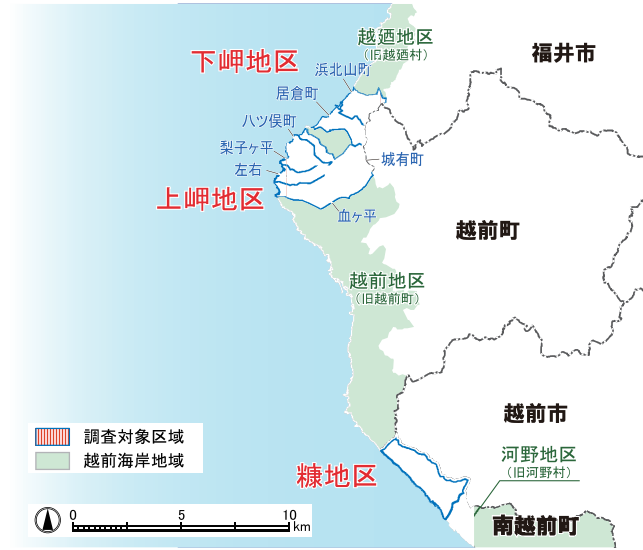
## 調査対象区域

- 越前海岸沿いにおいて、水仙畑が特に集積している越前岬を中心とした福井県福井市の下岬地区（旧越廼村）および越前町の上岬地区、南越前町の糠地区（旧河野村）を調査対象区域とした。

▼調査対象区域（広域図）



▼調査対象区域（詳細図）



## 自然的特性 ～対馬海流の影響を受け比較的温暖な日本海の海岸段丘～

- 越前海岸地域は、越前岬を西端に日本海へ突き出す海岸段丘地形である。対馬海流の影響を受け、県内でも比較的温暖で降雪量も少ない。また、表土が薄く、水はけの良い地質であり、このような環境はニホンズイセンの生育に適しており、地域内での自生および栽培につながっている。
- 越前海岸の東には丹生山地が迫り、分水嶺が海岸寄りにあるため、わずかな段丘面や海岸周辺の平坦地以外には急峻な斜面地が広がり、岩場が連なる海岸線へと短く急勾配の河川が谷間を流れている。

▼起伏に富んだ越前海岸



## 歴史的特性 ～農業・漁業を中心とした複数の生業の継続と特産品としての水仙～

- 縄文時代からの人の関わりを見出すことができ、中世には、塩・ワカメ・海苔などの海産物を年貢としていた。江戸時代には、石積により棚田が造成され、稲作が生業の中心であった。明治・大正時代には、山林で杉、薪や木炭、桑などの生産が行われ、戦後は年間を通して安定的な収入が得られるよう、果樹栽培にも取り組まれた。
- 平安末期の「越前水仙発祥伝説」が伝わる水仙は、室町時代に将軍家へ献上された品として、江戸時代には越前国の特産品の一つとしての記録が残る。明治以降は、生産者の組織化や流通経路の整備などにより出荷量を増し、水仙栽培は地域を代表する産業に発展した。

▼越前水仙発祥伝説の記念碑



## 生活・生業の特性 ～集落の立地特性に合わせた土地利用および急斜面での水仙栽培～

- 海から山林へと続く景観構造の中、集落が形成された立地特性に合わせて、漁業や農業、林業などの生活・生業が時代背景に応じて柔軟に変遷し、現在、集落に近い斜面地は耕作地として利用されている。
- 減反政策や一村一品運動などの中で、田畑を含めた傾斜地が水仙畑へと転換が進められ、急斜面に一面の水仙畑が広がる景観が生まれた。

▼越前水仙の収穫の様子



## 文化的景観の価値

### 「日本海を望む越前海岸の急斜面において 水仙栽培および農林水産業により形成された集落景観」

- 越前海岸の水仙畑と農漁村集落は、急峻な段丘崖を有し平地の少ない地形において、山腹の段丘面や海へと河川が流れ込む海岸部に集落を形成し、海・斜面地・山林でそれぞれ漁業・農業・林業など複数の生業を営むことで生計を立ててきた集落の景観地である。
- 対馬海流の影響を受けて比較的温暖で降雪量も少なく、水はけも良いため、当地に自生していたニホンズイセンを栽培し、耕作不適地であった急斜面および棚田を水仙畑に転換し、独特な景観を形成している。

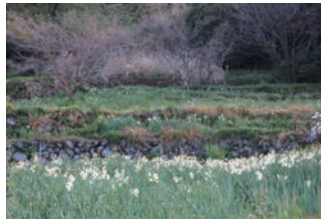
▼文化的景観の景観単位と構成要素のイメージ



▼農家住宅が建ち並ぶ集落



▼水仙畑と石積の景観



▼海沿いの急斜面の水仙畑



▼漁港でのワカメの天日干し



▼越前海岸地域における水仙畑の拡大過程と他の生業との関係

	江戸時代	明治・大正	1945年 (昭和20年)	昭和	1965年 (昭和40年)	平成	
山林区域	スギ [山・杉] 薪・木炭 [薪・炭] 油桐 [桐・桐・八・左・神] 三桧 [桧・杉・八] 漆 [杉・神] 運搬用の牛 [牛] 養蚕・桑 [桑・八・左・杉・神]	スギ [山・杉] 薪・木炭 [薪・炭] 油桐 [桐・桐・八・左・神] 三桧 [桧・杉・八] 漆 [杉・神] 運搬用の牛 [牛] 養蚕・桑 [桑・八・左・杉・神]	スギ [山・杉] 薪・木炭 [薪・炭] 油桐 [桐・桐・八・左・神] 三桧 [桧・杉・八] 漆 [杉・神] 運搬用の牛 [牛] 養蚕・桑 [桑・八・左・杉・神]	スギ [山・杉] 薪・木炭 [薪・炭] 油桐 [桐・桐・八・左・神] 三桧 [桧・杉・八] 漆 [杉・神] 運搬用の牛 [牛] 養蚕・桑 [桑・八・左・杉・神]	スギ [山・杉] 薪・木炭 [薪・炭] 油桐 [桐・桐・八・左・神] 三桧 [桧・杉・八] 漆 [杉・神] 運搬用の牛 [牛] 養蚕・桑 [桑・八・左・杉・神]	スギ [山・杉] 薪・木炭 [薪・炭] 油桐 [桐・桐・八・左・神] 三桧 [桧・杉・八] 漆 [杉・神] 運搬用の牛 [牛] 養蚕・桑 [桑・八・左・杉・神]	スギ [山・杉] 薪・木炭 [薪・炭] 油桐 [桐・桐・八・左・神] 三桧 [桧・杉・八] 漆 [杉・神] 運搬用の牛 [牛] 養蚕・桑 [桑・八・左・杉・神]
農用地区域	水仙 (自生) 米 畑 (自給用)	水仙 (自生) 米 畑 (自給用)	水仙 (自生) 米 畑 (自給用)	水仙 (自生) 米 畑 (自給用)	水仙 (自生) 米 畑 (自給用)	水仙 (自生) 米 畑 (自給用)	
海岸区域	廻船業・磯廻船 [廻・船] 塩 [海・左・杉・神]	廻船業・磯廻船 [廻・船] 塩 [海・左・杉・神]	廻船業・磯廻船 [廻・船] 塩 [海・左・杉・神]	廻船業・磯廻船 [廻・船] 塩 [海・左・杉・神]	廻船業・磯廻船 [廻・船] 塩 [海・左・杉・神]	廻船業・磯廻船 [廻・船] 塩 [海・左・杉・神]	

[浜]: 浜北山町、[居]: 居倉町、[八]: 八ツ俣町、[城]: 城有町 [梨]: 梨子ヶ平、[左]: 左右、[血]: 血ヶ平 [糠]: 糠、[杉]: 糠杉山、[神]: 糠神土